

耳公民館だより



第59号 令和6年7月



梅雨は洗濯物の出し入れや草刈り作業の判断など、やきもきする季節です。それだけに短い晴れ間には何ができるわけでもないですが空を見上げてほっとします。周囲を見渡すと気のせい、雨に洗われて草花や木々が美しくなったようにも感じられます。北陸地方の梅雨明けは例年遅くなりがちですが、次に猛暑が来るとわかっていても、明けてほしいものです。

(梅雨の晴れ間のガクアジサイ：木野)

大人のための絵本の時間 6/15(土)



老若男女ですね



楽しい



ベンチづくり

今年もやりますよ！

木のめくもり 家族工作教室

第1回 8月 4日(日) 9:30~11:30

第2回 8月17日(土) ”

※ 人気講座につき今年は2回開催

ご都合に合わせて、お選びください

会 場：中央小学校 図工室

参加費：1,500円 (ベンチ1つ分)

※メ切など詳細は、後日のチラシにて

立ち寄り型講座 「ふらっと」

行きたいときに気軽に参加できる企画「ふらっと」
機会をフラットに、公民館へふらっと立ち寄ってほしい
という思いです。

すでに18名の方に
ご参加いただきました

- ・参加無料、時間は30分程度
- ・館長不在の場合はできません。事前にお問い合わせいただくと確実です。

① インクの花



② 紙コップ風鈴



スタートしたばかりの今は2つのメニューですが、
少しずつ開発していきます。お楽しみに。

館長のつぶやき

新しいものが生まれ少しずつ手を加えて改良されていく流れは興味深く感じます。長く使われた一万円札の肖像が聖徳太子から渋沢栄一に変わりました。耳公民館の講座も従来の期日設定の申し込み型に加えて「立ち寄り型」という新たな一歩を踏み出しました。順調に広まってくれるといいですが、聖徳太子から「そんなに甘くないよ」と言われるかもしれませんね。

江戸時代から昭和まで活躍された渋沢栄一氏の生涯と同じ時期です。
そして江戸時代から砂糖の流通が盛んになり、一般の人にも現在と同じようなあんが広まり、明治から大正になると菓子の種類が増え専門のあんこ屋さんまできて、昭和には機械化で大量にあんが製造されるようになったということです。

その後、鎌倉時代から室町時代にかけて、諸般の事情から肉類のかわりに塩小豆のあんが作られ、室町中期になってようやくやく砂糖を使った小豆あんの登場となったようです。
その後、鎌倉時代から室町時代にかけて、諸般の事情から肉類のかわりに塩小豆のあんが作られ、室町中期になってようやくやく砂糖を使った小豆あんの登場となったようです。

あん